

# 日本ビーチボール協会 2022年度 審判部会報告

開催日時 2022年 5月 29日 AM9:30~11:30

場所 東京都台東区生涯学習センター

## ●協議議題【判定の統一化】

各都県協会からの質問事項について協議を行い、決定する。

- ①アタックを打ったボールの中心部分が白帯より下にある場合、相手側のブロックに当たっても1タッチとするのか？  
(ブロックに当たらなくても、自陣コートに戻ってくるのでブロックの1タッチと判定しないほうがよいのではないか？という解釈)

↳ネット上でボールが変形して相手側コートにボールがはみ出る事から、1タッチとなりうる場合もある。

- ②サービス時のトスアップについて

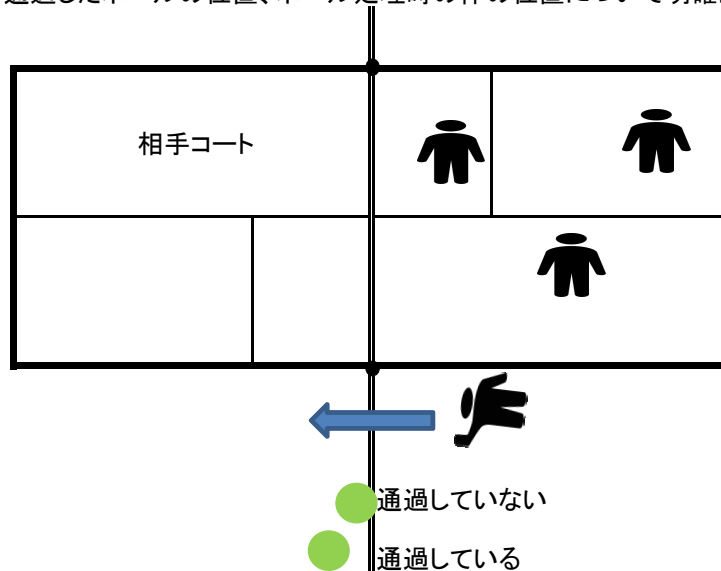
片手でボールを持っている状態で、吹笛後、もう一方の手でボールに触れたり両手に持ち替える行為

↳手から離れた時点でトスアップしたと解釈するので反則にならない。

- ③主審の安全を考えて、審判に触れる・審判台に触れる行為を反則にしてほしい。

↳現行のルールでは補助をしてプレーしたと見なす行為は反則であるが、安全を考慮しインプレー中に限り主審及び審判台に接触した時点でインターフェアの反則とする。岩手JCより採用  
2度吹き後、該当プレーヤーを差し、当たりましたという原因シグナルで表す。  
※副審・線審については該当しない(よける事が可能であるため)

- ④アンテナの外側を通過したボールの位置、ボール処理時の体の位置について明確にしてほしい。



- ↳ネット下のルールを運用する。(審判の手引きP19②C. ③)

よって、ボールが通過しない状態であれば相手のプレーを妨害しない限りプレーを続行できる。

- ⑤線審がフラッグを振って、主審が気づかない場合の対応。ボールデッド後、再度フラッグを振ってアピールするがそれでも気づかない場合は主審の所にいってもよいのか？

↳自分の判断で移動してはならない。インプレー中は判定に注力するためフラッグを下げアウトプレー中に再度フラッグで知らせる。それでも気づかない場合は審判団の連携で対角の線審・副審によって知らせること。





